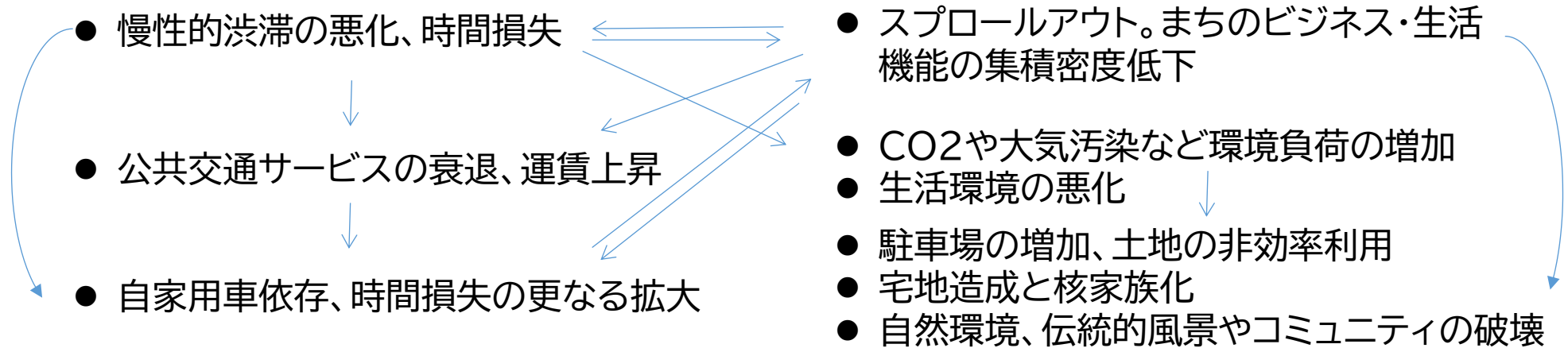


# 沖縄交通り・デザインについて

---

令和8年2月17日 第2回沖縄交通り・デザインシンポジウム  
内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長 亀谷匡哉

- 沖縄では、**過度な自家用車依存が常態化**し、都市部における慢性的な交通渋滞と地方部の「交通空白」が並行して進行し、時間・活動機会等が損失。
- このままでは、沖縄の移動・交通は、沖縄の社会、経済、環境の持続的な好循環に貢献するどころか、むしろ悪循環を加速する要因になるのではないか。



- 生産性低迷による所得水準の低下
- 所得・可処分所得の圧迫(エネルギーコスト増×労働時間短縮)
- 低所得層でも自家用車が必要に
- 子供や大人の学ぶ機会や質の高い生活を営む権利の喪失
- 貧困層の拡大、貧困の連鎖加速

生活・社会の質の低下

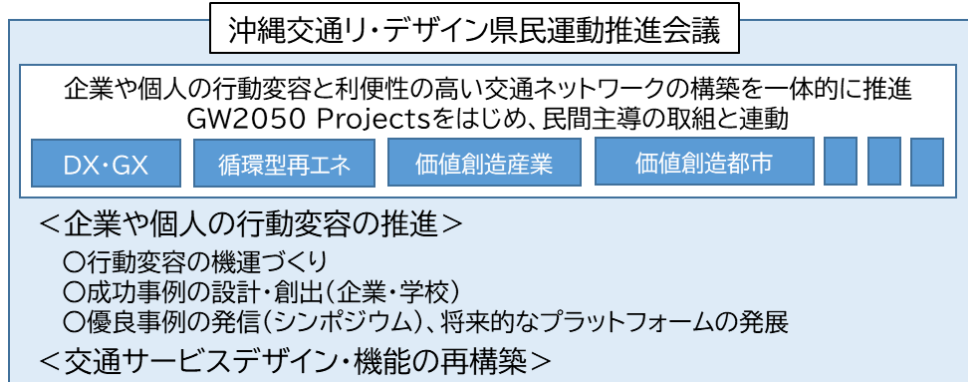
- 働ける時間の減少と人手不足の深刻化
- 生産活動の縮小
- 勤務・居住地の制約
- 移動・輸送コストの増大と稼いだ富の県外流出増大(車両、燃料など)

ビジネスの質の低下

- 訪れる価値・魅力の低下
- 地域文化の喪失
- 遠方への来訪意欲・可能性の低下
- 実質滞在時間短縮
- 地域内消費の低迷

観光の質の低下

- 社会生活や様々な活動を支える**基盤としての移動・交通のリ・デザイン**は、暮らしや活動の**主役である市民や民間の主導**で、「**ありたい姿**」を描き、その姿の実現を目指して行われるべきもの。
  - ⇒ 沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言、沖縄「交通渋滞・交通空白」解消イニシアチブ
- 沖縄交通リ・デザインの**中心的なコンセプト**は、
  - ① **政策立案プロセスの再設計**(あらゆるフェイズにおける市民の主体的な参画、巻き込み)
    - ⇒ パブリック・インボルブメントの重視(直轄調査、補助事業)
  - ② **目指す「ありたい姿」と「豊かさ」の再定義**
    - ⇒ 移動・交通のもたらすアウトカムとロジックモデルの整理(直轄調査)
  - ③ **アクション(「ライフスタイルの転換」×「移動環境の整備」)が連動する仕組みの再構築**
    - ⇒ 「草の根」の通勤・通学行動の転換実証&継続に必要な仕掛けの抽出(直轄調査)
    - 経済、金融、教育、観光、エネルギー等の様々な主体による共創(県民運動推進会議)



## 沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言

～高付加価値経済と持続的な発展に貢献する交通を目指して～

交通や都市は、人々の暮らしや余暇、地域の経済活動を支え、持続可能な発展の基盤となるものです。これまで、沖縄では、自家用車を前提としたライフスタイルとともに、経済成長を実現してきました。しかしながら、慢性的な交通渋滞により、那覇市内の旅行速度は日本ワーストクラスであり、沖縄県全体では労働力に換算すると生産年齢人口の約6%相当が失われています。また、著しく低い公共交通の分担率に伴う地球や地域の環境の悪化、二次交通の利便性の低さによる観光客の沖縄離れなど、このままでは、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながることも懸念されます。

このような認識のもと、わたしたちは、沖縄に暮らす住民はもとより、経済・金融・エネルギー・観光・教育・交通・都市といった多様な主体も一体となって、「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のリ・デザイン(再構築)に取り組み続けることをここに宣言します。

- 一、 沖縄の将来は、わたしたち沖縄に住まう人々のもの。そのことを強く自覚し、社会の変化にも対応しながら、住む人と訪れる人の誰もが満たされ、世界に開かれた「沖縄のありたい姿」を、わたしたちみんなで構想し、描いていきます。
- 一、 移動・行動の変容を通じて人々のライフスタイルを転換し、より健康的で充実した生活を実現するとともに、持続可能なビジネスを創出し、労働生産性を高め、暮らしとビジネスの好循環の実現に向け行動します。まずは、令和6年9月の沖縄バス無料デーを端緒として、わたしたちの各々が率先して、在宅勤務やノーマイカー通勤等の自家用車中心の生活からの脱却に向けた行動に継続して取り組みます。沖縄に住むわたしたちがオーナーシップと決意を持って、沖縄らしい自由でのびのびとした豊かな生き方を自ら実践し、訪れる人々にもその価値を広めていきます。
- 一、 まちづくりと一体となった交通拠点の整備や新たな公共交通システムの導入の取組と併せて、デジタル技術の活用、移動のあり方の再編、事業者や分野を超えた連携も含めて、利用者の目線に立って、今ある交通リソースのポテンシャルを最大限に引き出します。ライフスタイルの転換と持続可能なビジネスの創出の好循環を支え、沖縄の高付加価値経済の発展を促し、人々の暮らしに根差した社会共通資本として、「誰でも、いつでも、どこからどこへでも」交通の空白やストレスなく、効率的に移動できる環境の創出に向け取り組みます。

- 「沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言」、国土交通省「交通空白」解消に向けた取組方針2025」を踏まえ、①「交通渋滞」の解消(例:本島中南部)、②「交通空白」の解消(例:本島北部、離島)を柱に、取組を一層強力に推進する。
- 民間や自治体への**財政支援**(内閣府(沖縄)、国土交通省等の予算)、新たな**法制度**(日本版/公共ライドシェア等)、自治体や事業者等への**伴走支援**、リ・デザインに向けた国の**直轄調査**、新たな仕組み・サービスの構築のための市民、企業、学校等との**連携・協働の促進**(マーケットデザインチーム)など、あらゆる政策ツールを総動員。
- 官民のあらゆるプレイヤー、市民の参画の下、**交通インフラの整備と連動し、自動運転等の先進技術や観光の力も活用したサービス設計を進めることで、精神的豊かさと経済的豊かさを両立した「豊かな沖縄」の実現を目指す。**

### ①「交通渋滞」の解消

#### 【短期】

- 通勤・通学をはじめとしたライフスタイルの転換、ビジネスリフォームが自律的、継続的に起こるための仕掛け・プロセスの設計

#### 【中長期】

- 速達性、定時性、予見可能性、代替可能性を備えた高水準な基幹交通サービスへの再編

### ②「交通空白」の解消

#### 【令和8年度まで】

- 観光の力も活用した広域的な交通サービスの段階的なリ・デザインのモデル地域の創出
- 島嶼部の特性を踏まえた海陸横断のシームレスな移動環境の構築

#### 【令和9年度まで】

- 沖縄のすべての地域で「交通空白」の解消に目途

**+ α (①・②の取組を下支えし、加速化する  
地域公共交通のアップデート、交通産業の事業基盤の強化)**

- 各人のペルソナに応じ、移動、観光、消費、ECを一気通貫で扱い、好循環を加速する新たなMaaSシステムの導入
- 人材育成・体制構築を含むモビリティデータの活用推進 ➢ 市町村/事業者/分野の垣根を超えた共創の促進 等

**精神的豊かさと経済的豊かさを両立した「豊かな沖縄」を実現**

※ OECDのWell-Being指標(所得と富、雇用と仕事の質、住宅、健康、ワークライフバランス、知識とスキル、社会的つながり、市民参画、環境、安全、主観的幸福)を参考。

## 内閣府の取組

### ○沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

- 官民の様々な主体が参画し、企業や個人の行動変容の推進と交通サービスデザイン・機能の再構築を議論

### (1) 政策・計画立案プロセスにおける市民参画と目指す姿・目標・KPI等の設定の考え方に関する調査

- 欧州委員会のSUMP(持続可能な都市モビリティプラン)ガイドライン及び実践例における市民参画や目標・KPI等の設定の考え方
- Well-beingと関連する指標と移動・交通との関係、ロジックモデルの考え方の
- 現状の計画策定プロセスを前提としつつ、上記の知見を活用・実装するための工夫の整理

### (2) 通学・通勤における行動変容調査

- 那覇西高校、首里高校、コザ高校の3校を対象に、WS等のPIの実施、競争・ゲーム的な要素も含めた通学の行動変容の実証
- 沖縄セルラー電話、浦添市、宜野湾市、豊見城市、琉球大学を対象に、時差通勤・公共交通利用等の通勤の行動変容の実証

## 他主体の取組

### 沖縄県

(沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業 ほか)

### 各自治体、琉球大学

(公共交通利用促進・ノーマイカーの取組・モビリティマネジメント、働き方改革 等)

OIST、NAISTほか  
(So-SMART Project)

GW2050Projects

- ・
- ・
- ・

連携

- 通学行動の転換について、今年度は3校(那覇西高校、首里高校、コザ高校)を対象に、説明会やワークショップ、校内イベント等のPIを実施し、通学行動の転換(手段の分散(例:徒歩、自転車、公共交通×遅刻緩和)、時間の分散(例:早朝通学)等)の実証を実施。
- また、あわせて、日々の通学における課題や実証を通じて得られた気づき等の収集や分析・可視化、実証への参加を促すインセンティブのため、So-SMART Project(NAIST、OIST等が参画)プロジェクトチームと連携。
- 具体的には、実証期間中にPTで開発を進めているコミュニケーションツールを活用し、チャットボットによる意見の収集、収集した意見の地図上での可視化、ゲーム要素としてのクラス対抗ランキングを実施。

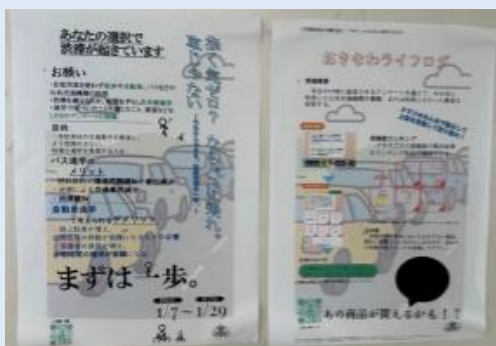
## 通学実証



沖縄の交通に関する説明会の様子@那覇西高校



未来の沖縄や実証に関するWSの様子@首里高校



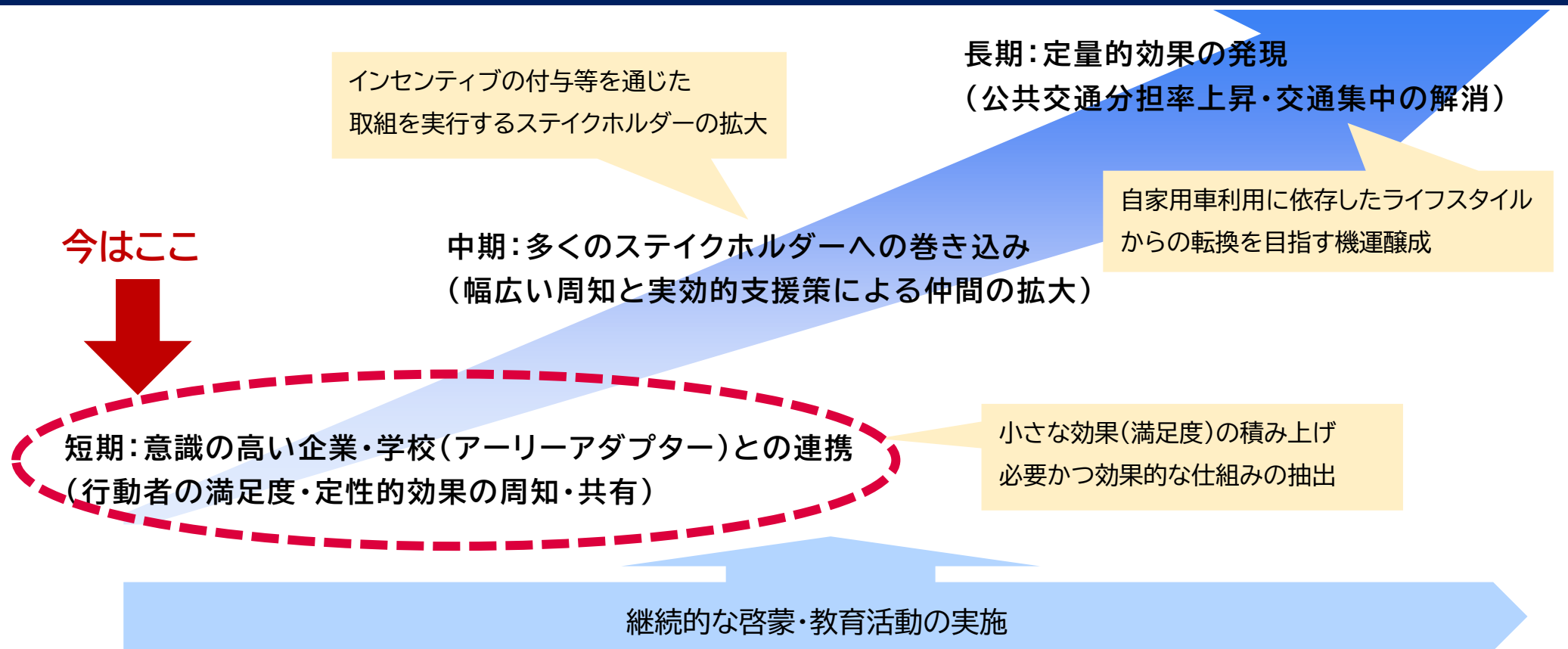
生徒主導の取組@コザ高校(上)、首里高校(下)

## So-SMARTツール



チャットボット画面

地図画面



来年度	
実証の展開・ アクションプラン策定	<ul style="list-style-type: none"><li>通勤・通学行動の転換について取組内容をブラッシュアップし実証を展開</li><li>並行してこれまでの成果をとりまとめ、今後のアクションプランを策定</li></ul>
再来年度以降	
施策実施	<ul style="list-style-type: none"><li>アクションプランで示した施策を推進し、さらなる取組の輪の拡大を目指す</li></ul>